Close-up Interview

レーンの魔術師

マギー審司さん(マジシャン)

「好きなことはガッツリやりたいタイプですが、飽きっぽいので『極める』ところまではいきません（笑）」

テレビのボウリング特番には欠かせない存在として知られるのがマジシャンのマギー審司さん。サービス精神旺盛な根っからの芸人気質の持ち主だが、趣味のボウリングではハイスコア279を誇り、自身がYouTubeにアップしているトリックショット集では、タネも仕掛けもない仰天の凄テクを披露する腕達者だ。

村田さんとは真逆のタイプ

――本格的にボウリングを始めたのはいつごろからですか？

マギー　14、15年前だったと思いますが、元祖爆笑王というボウリング好きの放送作家さんが芸人対抗のボウリング番組（フジテレビ系列の特番「お笑いチャンピオンボウリング」）を作ることになって、「どうせならちゃんとしたボウリングを見せたいから」と、出演者のボクたちにマイボールを持たせたんです。で、プロの方に教わって投げてみたら、ボールがプロみたいな曲がり方をして「あ、これカッコいい！」と思っちゃって（笑）。

マギー　一緒に回っていた後輩の芸人にもずいぶんボールやシューズを買ってあげたんですが、みんな2～3回ですぐに飽きちゃって（苦笑）。で、いつも一緒にいるのがマネージャーさん（内海賢治氏。3面記事参照）なので、ときどき付き合ってもらって20～30ピンのハンデをあげて一緒に投げたり、無理やりマイボールをプレゼントしたりしていたら、いつの間にかボク以上にハマって、人を集めていろいろやりだした（笑）。

――ところで、芸人になる以前にボウリングをやったことは？

▲性格も目指すボウリングも真逆な M’ s Family の 2 トップだが、それゆえにコンビとしては相性がいいのかも（5 月 22 日、東京ポートボウル）

マギー　両親がボウリングブームの直撃世代なので、幼いころにもやったことはあると思いますが、気仙沼でもボウリング場はいつも混んでいたという以外、当時の記憶はないですね。

――それでハマってしまったわけですか。

マギー　友だちとフラッとボウリングに行ってこんなボールを投げたらみんな驚くだろうな、と（笑）。ゲームの点数を上げるのではなく、いかに気持ちのいいストライクが出せるかだけを求めて、中毒のように投げていた時期がありましたね。

――どのくらいの頻度で？

マギー　いちばんボウリングにハマっていた時期は仕事も忙しくて、営業で全国各地を回っていたので、行く先々のボウリング場でマイボールを作っては、空き時間に投げて、ボールはそのままボウリング場に預けて帰っていましたね。

――それはすごい！

――学生時代は？

マギー　高校は柔道部でしたが、田舎で遊ぶところといったらボウリング場くらいしかなかった時代なので、部活の仲間や友だちとちょくちょく行って、力任せに投げてピンアクションを楽しむようなボウリングをしていましたね。スコアは平均130くらい。いいときで140、150くらいだったかな。

――マギーさんはマジシャンなので、手先が器用で何をやってものみ込みが早いというイメージがあります。

マギー　というより、好きなことはガッツリやりたいタイプですね。でも飽きっぽいので「極める」ところまではいかない。性格も負けず嫌いですが、かといって本当の一番になりたいわけじゃなくて「芸人のなかで一番手品が上手い」とか「マジシャンのなかで一番面白い」という姑息な一番狙い（笑）。そこで見つけたのが「ボウリング」だったんですよ。

――アハハ。

マギー　ゴルフやダーツが上手い芸能人は大勢いますからね。で、タレント名鑑を買ってきて、趣味の欄に「ボウリング」と書いている人がいないか調べたら、唯一村田（雄浩）さんだけが書いていて、あとはボウリングが上手い人でも別のことを書いていた（笑）。

――村田さんはマニアの域に達していますね。

マギー　ボールに小指の穴まで開けるって相当ですよね（笑）。投球スタイルにもこだわりが強くて、精密機械のようなボウリングを目指している。ボクは逆に、例えばケータイ片手にチャラチャラ話しながらストライクを取りたいようなタイプで（笑）、スコアを上げるのではなくネタとしてやりたいというか、どうしてもトリックショットみたいな方向にいってしまう。目立ちたがり屋なんです。

――芸人の性（サガ）ですね。

マギー　村田さんとは真逆なので、一緒に投げているときは絶対イライラしているだろうな、と思いますよ（笑）。

自分が楽しいことをやっているだけ

――ちなみに、村田さんとはどこで出会ったのですか？

マギー　それが、たまたま同じマンションに住んでいたんですよ。で、ボクの方から「一緒にボウリングやりませんか？」と誘いました。

――それはまたすごい偶然ですね。

マギー　「テレビでボウリング番組をやらないなら自分たちでやりましょう。芸能人でだれが一番上手いのか、ボク知りたいです！」と言って、ダンディ坂野さんとかガダルカナル・タカさんとか黒田アーサーさんとか、ボウリングが上手いと言われている人たちの名前を手当たり次第に挙げていって、最初は8人くらいでトーナメントをやりました。

――勝ったのは？

マギー　そのときはやっぱり村田さんが優勝して、「これちょっと何回か続けてやりたいですね」と言って、次また一緒にボウリングをやった翌日に、東日本大震災があったんです。

――はい。それから街頭募金を始めて、チャリティーボウリング大会を開催するに至った経緯は内海さんからお聞きしました（次頁参照）。チャリティー大会はすでに100回以上開催されているそうですね。

マギー　芸能関係者に声をかけて開催する大会と、一般の方に参加してもらう大会に分けてやっているので、それぐらいになりますね。参加者は多いときも少ないときもあって、一度大雪で7～8人しか集まらなかったこともありましたが、そのとき村田さんに「こんな天気でも来てくれる人がいるなんてうれしいじゃない。これはもう、2人だけになったとしても続けていこう」と言われて、やめられなくなりました（笑）。

――地元の気仙沼でも開催されているとか。

マギー　ええ。海沿いにあって流されてしまったさくらボウルが復活したときに、これはもうやらなきゃダメでしょ！と。年に1回は必ず行くようにしています。

――芸能関係者のチャリティー大会にはどんな顔ぶれが？

マギー　Gボウラーズの上級者はほぼ常連ですが、村田さんはボクら芸人が仕事では絶対会えないような人も連れてきてくれるんですよ。山田孝之さん（俳優）や冨永愛さん（モデル）、鳳蘭さん（女優）が参加してくださったこともあって、ミーハーなところもあるボクとしてはすごくうれしかった（笑）。

――それにしても、今なお開催を続けていることには頭が下がります。

マギー　楽しいからこそ続けられているんでしょうね。「人のため、人のため」と言いながら自分のためにやっている部分もある。それに、世間には売名行為だという人もいるし、実際「売名行為と言われるので、チャリティーはちょっと…」と参加を断ってきた人もいます。ボク自身はもう開き直って「すいません、ボクの売名行為に付き合っていただいて」と言いながらやっていますけど（笑）。

――何であれ、能書きだけ言って何もしない人よりは立派だと思います。

マギー　目立ちたがり屋なので、自分が人を集めて何かやるのが好きなんですね。ホント、自分が楽しいことをただやっているだけで、それがたまたまチャリティーと結びついて「偉いね」とか言ってもらえる。ラッキーなだけですよ（苦笑）。

マギー・しんじ／本名・三浦審。1973年11月11日、宮城県気仙沼市生まれ。高校卒業後は家業の電気店を継ぐ予定だったが、「その前に社会人として見聞を広めたほうがいい」という父親の友人の勧めで単身渡米中、現地でマジシャンと出会ったのを契機に自身も手品師の道へ。帰国後にマギー司郎の三番弟子となり、「マギー審司」の芸名で活躍。2005年、第21回浅草演芸大賞新人賞受賞。代表的なネタは「大きくなる耳」。マセキ芸能社所属。特技のボウリングでは俳優の村田雄浩氏とチーム「M’ s Family」を結成し、東日本大震災で甚大な被害を受けた地元・気仙沼のためにチャリティーボウリング大会を今日に至るまで継続開催している。現・みなと気仙沼大使、みやぎ絆大使。